

2023年（第44回）緊急臨床検査士資格認定試験

受験予定のみなさんに

公益社団法人日本臨床検査同学院

理事長 宮地 勇人

緊急臨床検査士資格認定試験は、1962年以來実施してきた「一般臨床検査士資格認定試験」の廃止（1991年）に伴い、1992年に発足しました。救命救急医療体制の全国規模での拡充に伴い、休日および夜間における緊急検査が全国的に定着してきたことを反映し、最近では1,000名以上の受験申込み者があります。このことは大変に喜ばしいのですが、一方では試験会場や試験実行委員の確保の問題があります。関東1会場での実施には困難を生じたため、1993年から関西でも実施し、2004年からは東日本2会場・西日本1会場を増設、さらに2007年からは、東日本2会場(東京都)と西日本2会場(近畿県、福岡県)に増設し、2009年からは東日本3会場(北海道・東北地区1会場、東京都2会場)と西日本3会場(中部、近畿、福岡地区)で700名有余の受験者に対応できるようになりました。また、2015年から関東地区の1会場、2017年から近畿地区の1会場、2018年から関東地区の1会場が増え、合計9会場で実施しています。現在、合格者の総数は8,208名です。コロナパンデミックの影響により2020年の試験は延期いたしました。2021年は関東が1会場減って8会場となったものの、受験者数は2021年959名（過去最多）に続き、2022年869名と高い水準にあります。

緊急検査は臨床医からの要求があれば、いつでもどこでも直ちに検査を実施しなければなりません。また、夜間や休日など仲間の検査技師がいないところで検査をしなければならない場合もあり、正確で迅速な検査実施に関する技術や知識が要求されます。実際の試験では、臨床検査技師として緊急検査について知っておくべき基本的な手技、知識を問う問題が出ます。日常業務を着実に実施していれば、必ずしも難しい内容ではありません。

この試験は実技の試験が主眼ですので、緊急検査を行っている臨床検査技師として、ぜひ挑戦してみてください。この試験に合格すれば、自信を持って緊急検査を行うことが出来るようになり、チーム医療の一員としての自覚と誇りが自他ともに充まるのは必至と思われます。

試験の実施要領は同学院のホームページで公表されています。試験範囲や試験場所、期日を確認し、十分に準備して受験してください。

みなさんのご健闘を心よりお祈りいたします。